

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アルプスアルパイン株式会社 仙台開発センター(古川)3号館	階数	地上4F
建設地	宮城県大崎市	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	1,374 人
地域区分	4地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年3月 竣工	評価の実施日	2023年5月22日
敷地面積	56,244 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社竹中工務店東京一級建築士事務所
建築面積	7,291 m <sup>2</sup>	確認日	2023年5月22日
延床面積	23,684 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社竹中工務店東京一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 7.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質 Q のスコア = 4.0**

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.8

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 4.2

#### Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 4.1

**LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 4.5**

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 5.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 4.0

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 4.5

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
社内イノベーション及び人材交流を促進させる施設デザインや最先端設備によりエンジニアの働きやすさ向上と組織間シナジーの強化を図る。地球環境への配慮を徹底し、空調負荷や外気導入量・照明設定などの最適化を図るとともに再生可能エネルギーを導入することでNealyZEBを実現し、脱炭素社会に貢献する。		サーバー室の排熱を補助暖房として有効利用している。敷地内の軟弱地盤の沈下対策を実施している。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
複層ガラスの採用、断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分配慮している。	天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。非常用発電機、無停電電源設備を採用し、建物の耐用性・信頼性に配慮している。	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。中高木などの緑地を設けることにより敷地内温熱環境の向上、良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高効率空調機、LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。消費エネルギー量を把握し、効率的運用に配慮している。太陽光発電システムを採用するなど、エネルギー面にも配慮している。	自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を38%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
 アルプスアルパイン株式会社 仙台開発センター(古川)3号館

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>4.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>					0.40		-		<b>3.8</b>
<b>1 音環境</b>				<b>4.1</b>	0.15	-	-		<b>4.1</b>
1.1 室内騒音レベル		騒音レベル45dB		<b>4.0</b>	0.40	-	-		
1.2 遮音				<b>4.4</b>	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		サッシ遮音性能T-2		5.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		Dr-35		3.7	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-		
1.3 吸音		天井:ロックウール吸音板、床:タイルカーペット		<b>4.0</b>	0.20	-	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>3.8</b>	0.35	-	-		<b>3.8</b>
2.1 室温制御				<b>3.8</b>	0.50	-	-		
1 室温		-		3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		断熱材を強化し、外皮性能を上げている		4.8	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		空調が複数にゾーニングされ、ゾーン毎に冷暖の選択可能		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		加湿機能、除湿機能を有し、湿度50%が実現可能な設備容量を確保している		<b>5.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.7</b>	0.25	-	-		<b>3.7</b>
3.1 昼光利用				<b>2.2</b>	0.30	-	-		
1 昼光率		-		1.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		-		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		ハイサイドライトを設け、積極的な昼光利用を行っている		4.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				<b>4.0</b>	0.30	-	-		
1 昼光制御		ブラインドと庇を組み合わせて制御している		4.0	1.00	-	-		
3.3 照度		設計照度500lx以上1000lx未満		<b>4.0</b>	0.15	-	-		
3.4 照明制御		自動照明制御が可能		<b>5.0</b>	0.25	-	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>4.0</b>	0.25	-	-		<b>4.0</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30	-	-		
1 換気量		中央管理方式の空調設備を設置、30m <sup>3</sup> /h人以上を確保		4.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能		-		1.0	0.33	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は各種排気口と異なる方位で、かつ6m以上離れて設置		5.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理				<b>5.0</b>	0.20	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視		CO <sub>2</sub> 監視が中央で常時行えるシステムとなっており、かつ空気質を適正に維持するためのマニュアル等が整備されており、有効に機能している		5.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙としている		5.0	0.50	-	-		

Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	4.2
1	機能性		4.0	0.40	-	-	4.0
1.1	機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性	-	3.0	0.33	-	-	
2	高度情報通信設備対応	-	3.0	0.33	-	-	
3	バリアフリー計画	-	3.0	0.33	-	-	
1.2	心理性・快適性		5.0	0.30	-	-	
1	広さ感・景観	事務室天井高2.9m以上	5.0	0.33	-	-	
2	リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機を設置している	5.0	0.33	-	-	
3	内装計画	建物全体のコンセプトや機能が明確であり、内装計画に反映している	5.0	0.33	-	-	
1.3	維持管理		4.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	内装材は防汚性に配慮している、壁掛け大便器・小便器を採用している	5.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保	フロアごとに掃除用流しを設け、洗い場を設置し排水経路を確保している	4.0	0.50	-	-	
2	耐用性・信頼性		4.5	0.30	-	-	4.5
2.1	耐震・免震・制震・制振		4.8	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた50%増の耐震性を有する	5.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能	揺れを抑える装置を導入し、部分的に地震時・強風時の内部設備保護を図っている	4.0	0.20	-	-	
2.2	部品・部材の耐用年数		4.1	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁:鋼製パネル仕上げ(塗装品):30年	5.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	天井:RW吸音板:30年、壁:EP・クロス:20年、床:タイルカーペット:20年	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出・多湿ダクトにはガルバリウム鋼板ダクトを使用している	4.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	冷温水:炭素鋼管:D、給水:ポリエチレン管:B、汚水:塩ビ:B、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	信頼性		4.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備	熱源の分散化、バックアップを行っている、空調・換気設備は災害時に重要度の高いシステムを優先的に運転するように計画	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水型器具を採用、可能な限り配管システムを区分、災害対応(BCP)汚水貯留槽を設置、中水(雨水)の利用	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電設備・無停電電源設備の設置、電源設備等の地下空間への設置を回避	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブル、タルケーブルなど通信多様化、精密機械を地下空間に設置していない、災害用有線電話の設置、	5.0	0.20	-	-	
3	対応性・更新性		4.1	0.30	-	-	4.1
3.1	空間のゆとり		4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1以上0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2	荷重のゆとり	積載荷重:4,900N/m <sup>2</sup>	4.0	0.30	-	-	
3.3	設備の更新性		3.8	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	天井スペースを確保、システム天井を採用、空調機はほぼ全てを機械室に設置することで、仕上材を痛めることなく空調配管の更新・修繕が容易にできる	5.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック、システム天井、OAフロアを使用することにより構造部材・仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラック、EPS、システム天井、OAフロアを使用することにより構造部材・仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	4.1
1	生物環境の保全と創出	立地特性の把握、敷地内の緑を復元、自生種(シラカシ)の保全に配慮、植栽条件に応じた緑地づくり、野鳥の生息域の確保	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	建物の色彩等のまちなみへの調和、植栽による良好な景観を形成	5.0	0.40	-	-	5.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性										4.5
LR1 エネルギー										5.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.66	5.0	0.20	-	-	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	通風利用・自然換気システムを計画し、シミュレーションを行い、有効性を検討した上で採用している。自然エネルギー利用量が15MJ/m <sup>2</sup> ・年以上であることを確認している	5.0	0.10	-	-	-	-	-	5.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.23	5.0	0.50	-	-	-	-	-	5.0
4	効率的運用		5.0	0.20	-	-	-	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価		5.0	1.00	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング	建物で消費される各種エネルギー消費量を年間に渡って把握し、消費原単位等を用いてのベンチマーク比較が行える。用途別エネルギー消費の内訳を把握し、消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性が確認できる。設備システムの効率評価を行うことができる	5.0	0.50	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	運用管理の組織、体制、管理方針を計画し、責任者を指名している。建物全体のエネルギー使用量の目標値を計画し、建築主に提出している。コミショニングを行っている	5.0	0.50	-	-	-	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										4.0
1	水資源保護		4.4	0.20	-	-	-	-	-	4.4
1.1	節水	節水型便器に加えて、節水コマ、自動水栓等を主要水栓の過半に採用している	4.0	0.40	-	-	-	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		4.7	0.60	-	-	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用により雨水利用率の20%以上を満たす	5.0	0.70	-	-	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水等を利用している	4.0	0.30	-	-	-	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		4.0	0.60	-	-	-	-	-	4.0
2.1	材料使用量の削減	BCP、ハイペースNEO工法、QLデッキ合成スラブ、スーパーフェローデッキスラブ、クラウンパイルアンカー工法の採用	5.0	0.10	-	-	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床タイル:食堂床、磁器質タイル:階段床、断熱材:エントランス床	5.0	0.20	-	-	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	3.0	0.10	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+LGS+仕上とし、躯体と仕上材が容易に分別可能、再利用できるユニット部材としてOAフロアを採用	5.0	0.20	-	-	-	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20	-	-	-	-	-	3.7
3.1	有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含有しない建材種別を1つ採用している	4.0	0.30	-	-	-	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.6	0.70	-	-	-	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用している	4.0	0.33	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=10以下のノンフロン発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.33	-	-	-	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.33	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境										4.5
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率38%	5.0	0.33	-	-	-	-	-	5.0
2	地域環境への配慮		4.1	0.33	-	-	-	-	-	4.1
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	隣棟間隔の比率が0.5以上、LR1エネルギーのスコアが5.0、散水付き空冷ヒートポンプチャラーの採用により顕熱排熱の抑制を行っている	4.0	0.50	-	-	-	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.7	0.25	-	-	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	自主的に雨水流出抑制対策を実施している	4.0	0.25	-	-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場を確保し利便性に配慮、荷捌き用駐車スペースの確保、複数出入口を設置し周辺道路の渋滞を緩和させている	4.0	0.25	-	-	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの種類や量を推計している、室内にゴミの分別回収ボックス、ストックスペースを計画、有価物回収を行っている	4.0	0.25	-	-	-	-	-	
3	周辺環境への配慮		4.3	0.33	-	-	-	-	-	4.3
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		5.0	0.40	-	-	-	-	-	
1	騒音	現行の規制基準より大幅に抑えられている(50dB以下)	5.0	0.50	-	-	-	-	-	
2	振動	現行の規制基準より大幅に抑えられている(55dB以下)	5.0	0.50	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.7	0.40	-	-	-	-	-	
1	風害の抑制	事前調査や風環境評価指標によるランク評価を実施し対策を行っている、一部に立地に対する風環境のランクより上のランクがある	4.0	0.70	-	-	-	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-	-	-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目を一部満たし、広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0	-	○	○	-	-	○	○	-	○	○	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	9.0	-	-	○	○	-	-	○	○	○	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	4.0	-	-	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	○	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	4.0	3.0	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	4.0	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	11.0	-	2.0	2.0	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	5.0	-	2.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0	-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0	-	-	1.0	1.0	2.0	-	2.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	5.0	-	-	-	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	14.0	-	1.0	1.0	1.0	3.0	1.0	1.0	-	3.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	-	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率( $\eta$ )	0.4
U値(W/m <sup>2</sup> K)	窓システム 1.8	屋根	0.7
		外壁	0.3
		床	0.7
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	$\eta$ AC -
			$\eta$ AH -

3.1.1 昼光率

昼光率 0.0%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 0.0%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 6.0m<sup>2</sup>/人 病床 .0m<sup>2</sup>/床 シングル .0m<sup>2</sup> ツイン .0m<sup>2</sup>

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 30.0 VA/m<sup>2</sup>

1.2.1 広さ感・景観

天井高 3.05 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 30 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 5.0~5.5 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.1~0.3

3.2 荷重のゆとり

床荷重 4900 N/m<sup>2</sup>

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 18% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 57% 水平投影面積率 11% 地表面対策面積率 5% 舗装面積率 8%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI<sub>m</sub> 0.66 断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 26.3 MJ/年m<sup>2</sup> 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%

通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI<sub>m</sub> 非住宅 0.23 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 27.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 磁器質タイル、断熱エコマーク商品 ビニル床タイル 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 10

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	62%	隣棟間隔指標R <sub>w</sub>	1.09
地表面対策面積率	6.0%	屋根面対策面積率	4.0%
		外壁面対策面積率	#DIV/0!
見付面積S <sub>b</sub>	1,655m <sup>2</sup>	卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub>	98.4 m
		基準高さH <sub>b</sub>	27.12 m
緑地	2,110m <sup>2</sup>	水面	m <sup>2</sup>
		保水性対策面	m <sup>2</sup>
		高反射対策面	m <sup>2</sup>
		再帰性反射対策面	m <sup>2</sup>